



深田久弥

山の文化館だより

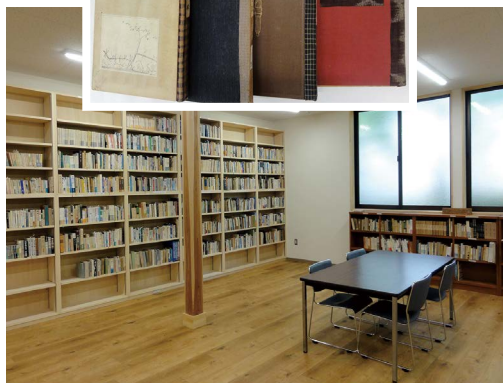
平成30年
夏号

深田久弥 山の文化館
〒922-0067
石川県加賀市大聖寺春場町十八
TEL 〇七六(一)七二一三三三
FAX 〇七六(一)七二一三三一

資料文献室だより

建物が完成し、収蔵している文献資料を整理する中から、珍しい出版物を見つけました。それは、栗林一路さんが青年期に自作した書物です。昭和十四年から二十年にかけて製作されたもの八冊と『山日記』と題するもの一冊です。原稿用紙にペンで手書きされ、カットや挿絵も自筆のもので、それらをご自身で製本されたものです。それぞれたった一冊の書物です。栗林さんは後に、何冊もの本を執筆されています。

これらの書物を八月から展示します。一見の価値ありと思います。



久弥と五万分の一地形図と赤鉛筆と

その3

今回は、残念ながら「赤鉛筆」ではない。比較的新しい地図(注1)で、裏面に万年筆で鉄道のことが書かれているものがあつた。地勢図長岡の柏崎、出雲崎、三条の三枚である。以前目にした列車からの山岳展望の話につながるのかと、「車窓から見た山」を探し出して読んで見た。読み進めるが越後線の話は出てこなかった。

裏に書かれた日付から調べていくと、一九六八年七月二五日には深田久弥は弥彦山に登っている。この登山について書いた文章はないかと探すと、あつた。そのものズバリ「弥彦山」というものだった。

三枚の地図の裏には、「一九六八・七・二五 越後線 暑し 柏崎発九・〇八 青田をバックに真紅のカンナ」とあり、その後いくつかの駅名が書かれ、「新信濃川・地藏堂(注2) 左手に弥彦山見ゆ」とある。

この日は弥彦山神社の燈籠神事が有り、その協賛行事である松明登山が行われていた。また高頭祭も行われる。「何しろ盛夏の六百メートルの山と言え、その暑さはご想像願えよう。」とある様に暑さの中を歩いて登った。

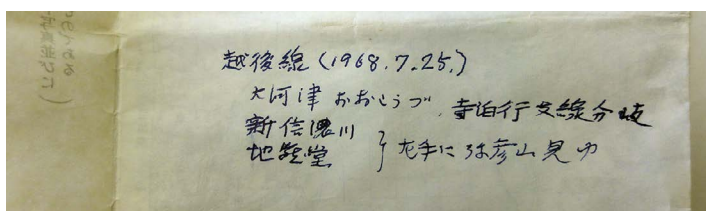
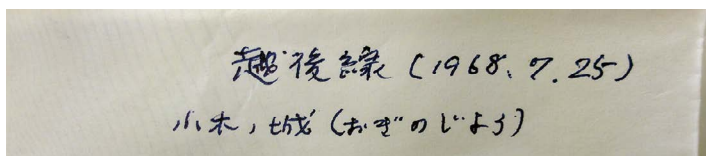
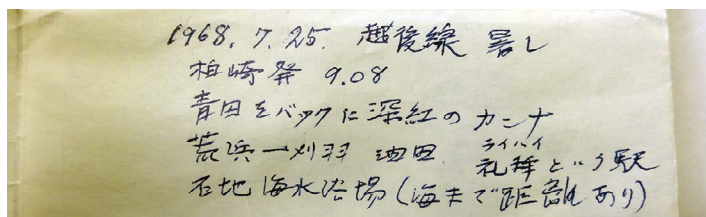
高頭仁兵衛の記念碑を訪れ、山頂から眺望を楽しもうと思ったが霧のためかなわなかった。その後松明を持たされ、松明行列の先頭を歩くことになった。地図の書込みから探して当たったのは、そんな弥彦山登山であつた。

「車窓から見た山」は直接地図との関連はなかったが、各地点からの展望をカシミール3Dで検証して見たくなり始めてみた。何かの機会にお見せしたい。

注1 昭和二十七年応急修正、昭和三十三年印刷
注2 位置は少し移動したが現在の分水駅

参考

「車窓から見た山」||「山岳雑誌」収録
「弥彦山」||「山頂の憩い」収録



第22回久弥祭開催される

四月二十二日(日)晴天の富士写ヶ岳をバックにして、九谷ダム広場で県内外の山岳関係者などの参加を得て厳かに行われた。

式典終了後の富士写ヶ岳登山に参加した方に感想を寄せて頂きました。



久弥が愛した富士写ヶ岳に登って

高橋 幸子

天気恵まれ風も無く清々しい朝日が射し込む中、久弥祭が行われた。献花、献酒、はつしほ俳句会の献句、久弥作詞の校歌の朗読で静かな山間が急に賑やかになった。

今年も白いタムシバ、イワウチワや、咲き始めたばかりの可愛い石楠花が、長い道のりを励ましてくれた。一部では残雪が深く、滑るやら、枝をくぐるやら、跨ぐやらで悪戦苦闘だった。

山頂ではもう既に大勢の登山者が賑わっていた。遠くには、美しい白山と、ドンと構えた方位盤を背に写真を撮っている姿が微笑ましく、久弥さんも笑っているようだった。

帰りも雪道をキャーキャー言いながら下山

駐車場には我々のメンバーしか残っていないかったが、何よりも怪我も無く無事にたどり着いた事に感謝。

ふと振り返って見ると、今回の山は花あり雪あり、新緑ありの三拍子。やはり山は色々あって楽しいなあと思ひ、ふるさとの山は又行きたくなる山でもあった。

読書会と木ノ芽峠

「日野山と木の芽峠」の読書会に触発されてその地の散策を企画しました。

当日はあいにくの曇り空でしたが、たくさんの方の参加を得、中身の濃いものとなりました。



「言うな地蔵」の前を通り越し峠道を登りつめるとたつた一軒の迫力ある茅葺の家に着き、その中で築五五〇年といわれているこの家を守りつづけている当主の話で夏祭からお茶を淹れてもらいながら炉辺で聞きました。

その後日野山の登り口や、由緒ある寺や久弥さんのおばあさんのお墓や、万葉集ゆかりの味真野で継体天皇と「照日の前」のロマンの像を訪ねたりしました。

本を読むだけではなく実際に歩き目にしたことで書への思いが深まった気がしました。これからこのような機会を計画したいと思っています。

吊釜の煤脂ぎる夏炉かな

たつきして五十数年夏炉焚く

間こう会予定

■十月十四日(日) 午後一時半より三時
深田久弥山の文化館 聴山房

演題…深田久弥と深田クラブ
講師…小林 晃氏
(深田クラブ初代会長)

■十一月十八日(日) 午後一時半より三時
深田久弥山の文化館 聴山房

演題…家の中の久弥
講師…深田 勝弥氏
(深田久弥の甥)

読書会のお誘い

七月二十四日(火)「伊吹山」
九月二十五日(火)「越中の二上山」
十月二十三日(火)「劔岳」

●場所…深田久弥山の文化館 聴山房
●時間…午後一時半より三時

*詳細はホームページをご覧ください

編集後記

活動の夏がやってきました。涼しさを求めて雄大な眺めや、花たちとの出会いの山旅を思ってはみるものの、夢にたどりつくのには先ず自分を律しなければと思っています。